令和４年度「川崎医療短期大学の教育・学生生活に関するアンケート（卒業後アンケート）」調査結果

Ⅰ．調査時期、対象者、調査方法、回収結果

調査時期：令和４年８月、対象者：令和３年度卒業生

調査方法：Google フォームを用いたオンラインアンケート調査。卒業生には QR コードを印刷したはがきを送付

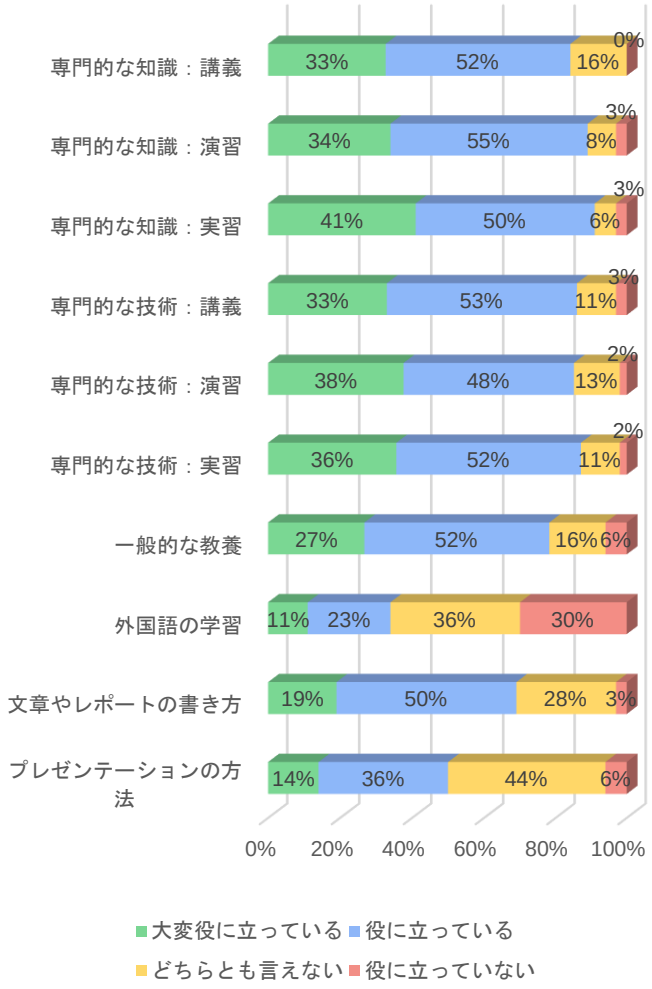
回収結果：

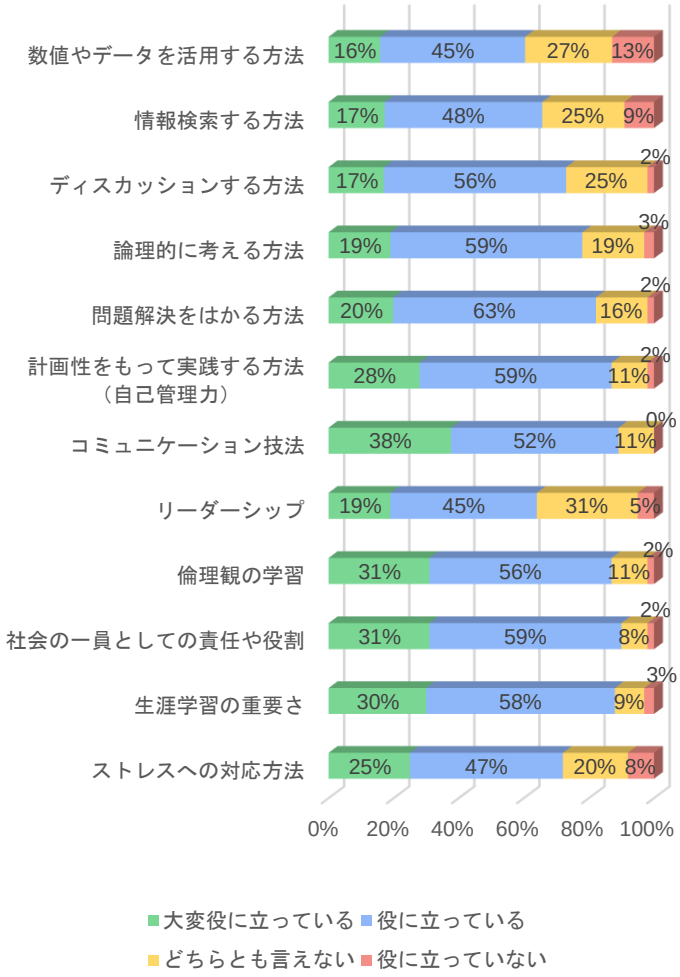
		対象者数	回収数	回収率	進路		
					就職	進学	その他
総計		146	62	42.5%	57	4	1
内訳	看護科	132	53	40.2%	49	3	1
	医療介護福祉科	14	9	64.3%	8	1	0

Ⅱ．アンケート結果

A. 教育・学生生活について

1.在学中の教育について



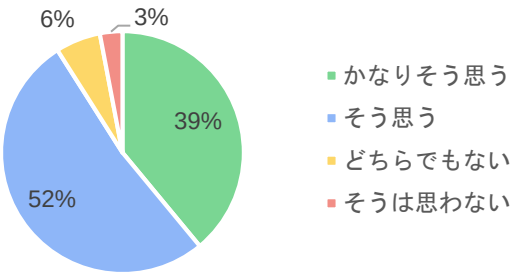


1-その他気になった点（自由記述　２件）

・グループワークを取り入れて、自分の意見を考えて述べる場を増やしたほうがよい。

・学生への対応が極端すぎる教員がおり、実習に響いた。

2. 本学の学びの評価（本学で学んでよかったと思うか）



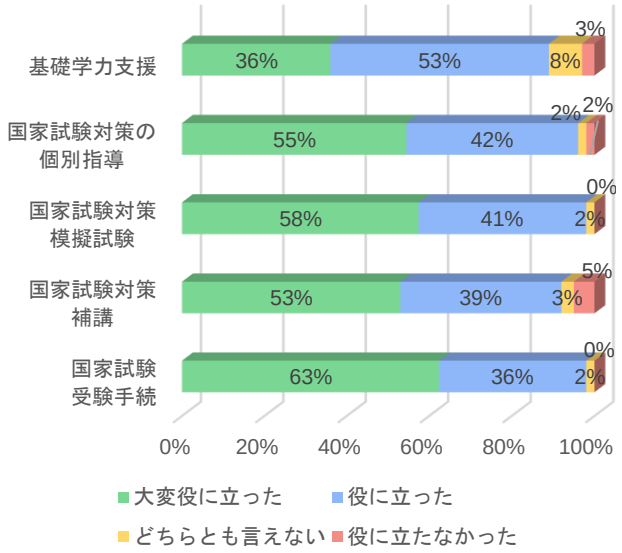
＜本学で学んでよかった理由＞（自由記述　13 件）

・国家試験に力を入れていたから。
・実習や就職、国試の際にサポートしてくれた先生方がいたから。
・実習で得たことは力になっていると感じるから（2 件）。
・厳しい看護の世界を学ぶにあたり、最高の学校だと思うから。
・3 年間はかなりハードだったが、時間を有効活用する方法や友達と協力することの大切さを学ぶことができたから。
・わからないところを聞いたら優しく教えてくださったり、困ったことがあったときに相談しやすい先生がいたから。
・熱心に指導してくださる先生方と同じ目標にもった仲間と 3 年間頑張ることができたから。
・病院実習が苦痛だったが、振り返ってみると座学よりも実際に患者さんと接するほうが学べることが多くあったと思うから。同じ目標を持った友達と、テスト勉強や実技練習を頑張ることができて楽しかったから。
・面談があり先生方に相談しやすい環境であったことや、個々人に寄り添った関わり方でサポートしていただけたから。
・部署内に短大出身の先輩が大勢いて、話題が豊富になるから。
・コロナ禍での実習ではあったが、先生方がいろいろ考えてくださり、施設に行けないときにもそれに近い演習を組んでくださったから。疾患について深く学んだことが現場で役に立っているから。
・社会福祉士になるために進学したが、ディスカッションやレポート提出が非常に多い。短大でのグループワークが役に立っているから。
・介護についてたくさん学べたから。

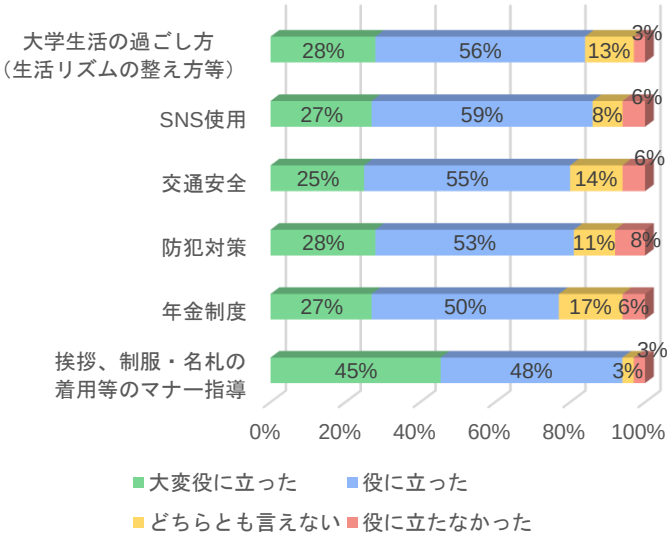
〈他に本学で学びたかったこと〉（自由記述　4 件）

・注射　・救急実習　・臨床に出てからの行動計画の立て方　・学生同士での採血の技術演習

3. 在学中の教育支援について

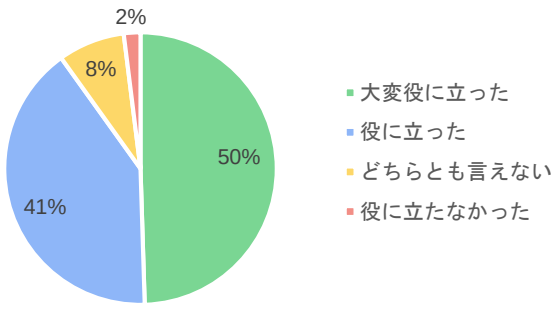


4. 在学中の学生生活支援について

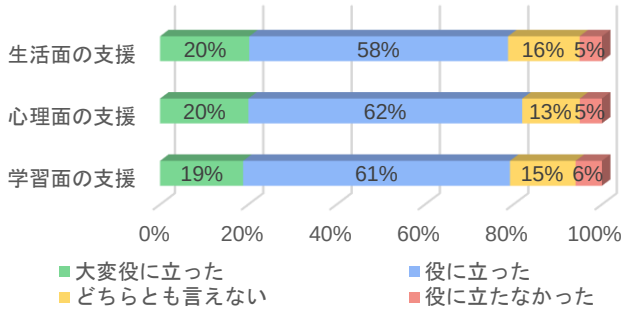


3・4-その他気になった点　なし

5. 担任制度について



6. 1 年生のアドバイザー制度について（看護科のみ）



5-その他意見（自由記述　2 件）

・困った時や進路について相談しやすくてとても助かった。

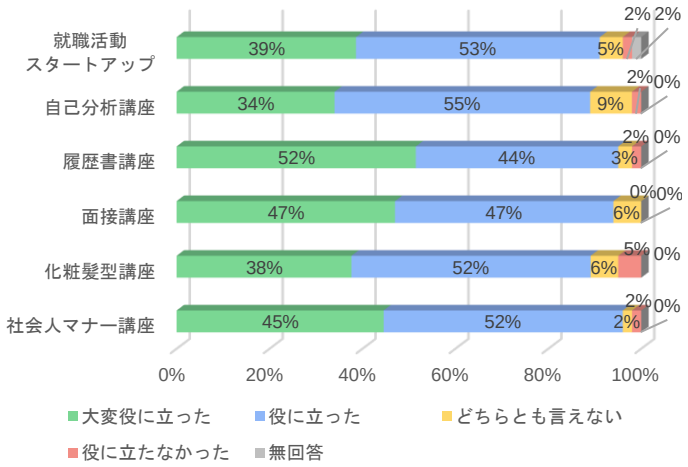
・就職活動の相談をしたが、自分の意見を聞いてもらえなかった。

6-その他意見（自由記述　2 件）

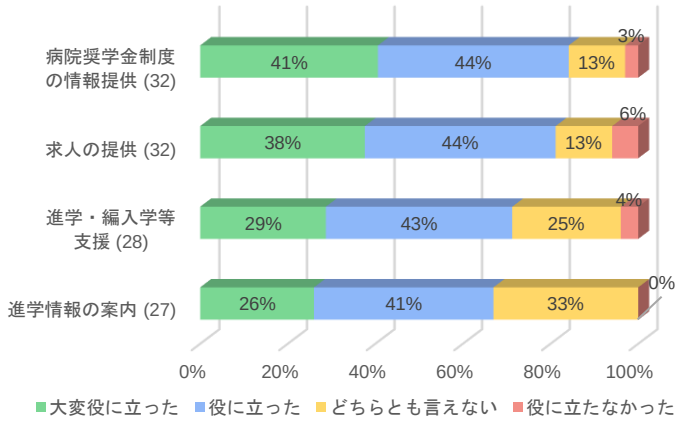
・もう少し話す機会があれば良かったと思う。

・担任に相談できないことでもアドバイザーにならできることもある。

7. 就職・進学支援について



※該当者のみ



7-その他気になった点　（自由記述　1 件）　一般企業を対象にした就職活動にも理解を示してほしい。

8. 在学中にできなかったことで、学生時代にしてみたかったこと（自由記述　6 件）

・学園祭への参加（2 件）　・友達と旅行したり外食したりと普通の学生生活を送りたかった（2 件）　・研修旅行　・留学

まとめ　教育・学生生活支援について

本学の教育の有用性について、専門分野では約 9 割の卒業生が良好な評価をしていたが、一般的な教養等の基礎分野については 6～7 割であり、外国語学習は 3 割にとどまった。教育活動全般を通して涵養される能力についても、プレゼンテーションとリーダーシップ以外は 7～9 割の卒業生が高く評価しており、自己管理、コミュニケーション、倫理観、社会の一員、生涯学習が高かった。国家試験対策を始めとする教育支援は、ほぼすべての卒業生がその効果を実感していた。9 割以上の卒業生が本学で学んでよかったと回答した。

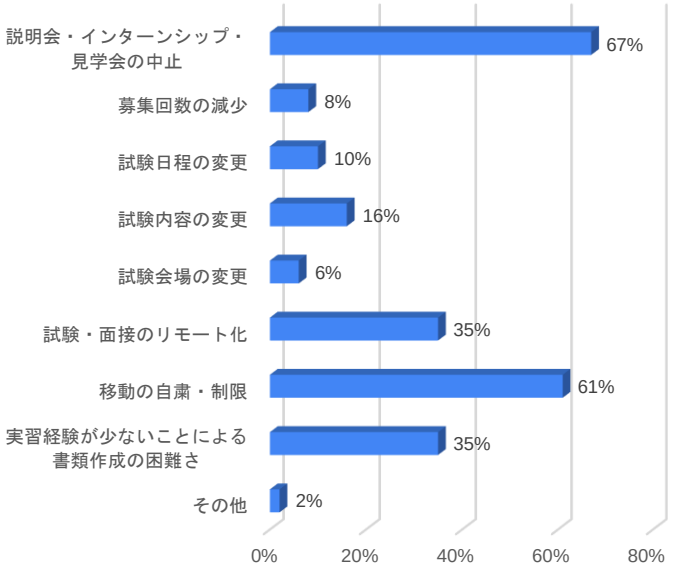
学生生活支援は、いずれの項目も約 8 割の卒業生が役に立ったと回答し、マナー指導は 9 割を超えた。担任制度は 9 割、アドバイザー制度は約 8 割の卒業生がその良さを実感していた。昨年度よりもアドバイザー制度の評価が 1 割程度高かったが、回収率の低さのためかもしれない。就職支援は約 9 割の卒業生が評価したが、進学支援は約 7 割であった。

以上の結果から、今回の調査対象となった卒業生は、本学での学びを十分に実感し、就職にも満足しているものと推察される。また、倫理観や責任感、生涯学習、マナーなどの回答から、医療福祉の専門職としての自覚もできてきていることがうかがえた。一方、基礎分野の知識が業務に役立っているという認識は低かった。今後は、進学を希望する学生への支援を検討していく必要がある。

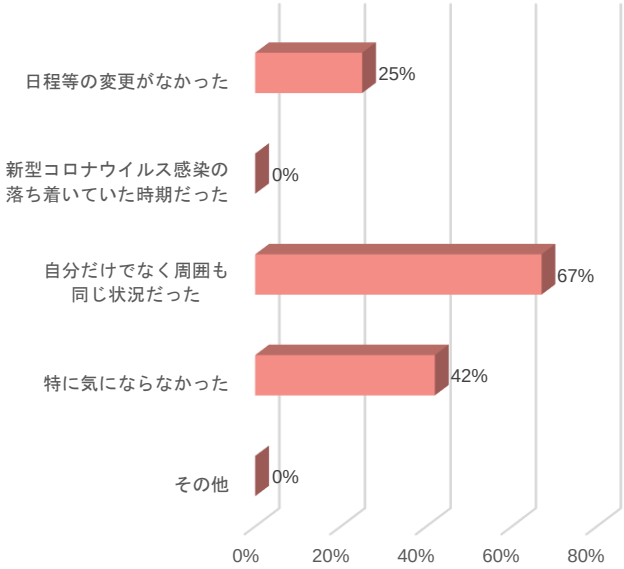
B　進路に対する新型コロナウィルス感染症の影響

1. 就職活動　新型コロナウィルスによる影響の有無

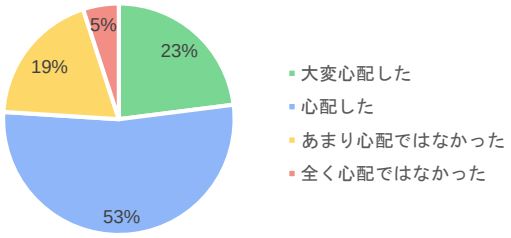
1-a 影響を受けたと感じた事象（複数回答可　49 件）



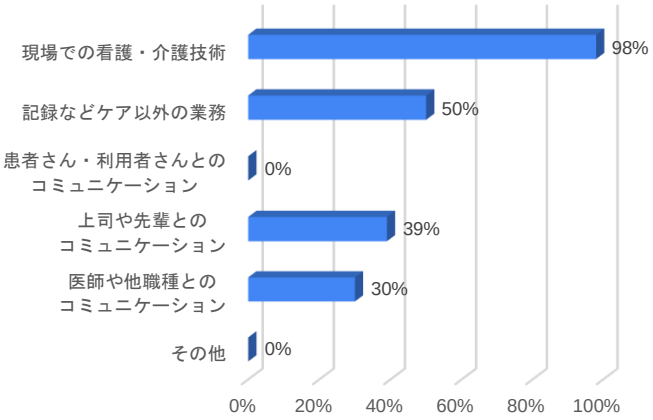
1-b 影響を感じなかった理由(12 件)



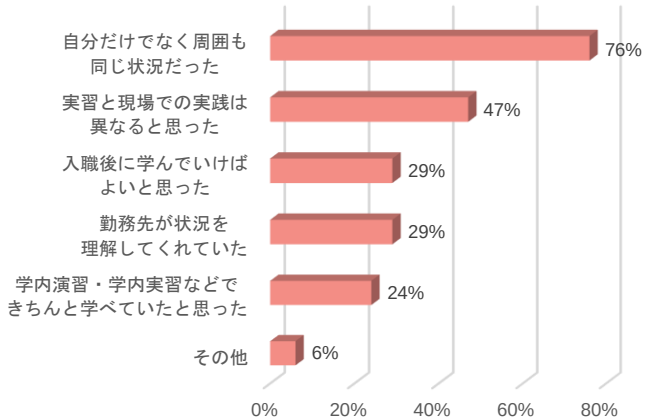
2. 入職前　学外実習の中止・短縮が仕事に影響する心配（62 件）



2-a「大変心配した」「心配した」内容（複数回答可　46 件）

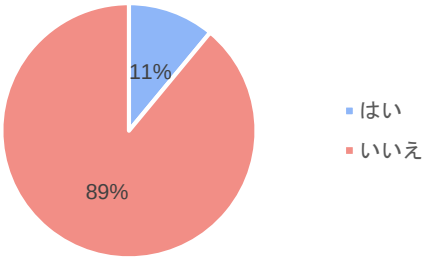


2-b「あまり・まったく心配しなかった」理由（17 件）



（その他：医療機関への入職ではなかったため）

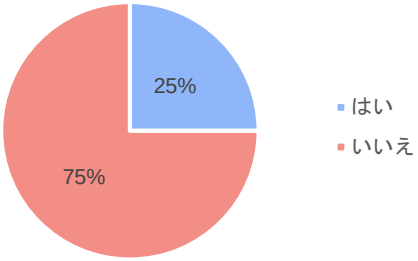
3. 現在　学外実習の中止や短縮による良い影響の有無（62 件）



3-a 良い影響ありの場合の理由（自由記述　2 件）

・在学当時、精神的な休息ができた気がしたから。
・入職後、できなくて当たり前で接してくれるから。

4. 現在　学外実習の中止や短縮による良くない影響の有無（60 件）



4-a 良くない影響ありの場合の理由（自由記述　6 件）

・ある分野だけ学べなかったから。
・経験できる場が少なかった分不安が大きいから。
・先輩や患者さんとのコミュニケーションに悩むことがあったから。受け持ち患者さん以外と関わる機会が少なかったため、経験できた技術項目も少なく、知識・技術不足を実感したから。
・実習中、患者さんの家族と関わることがなく、入職してから家族とのコミュニケーションの仕方が難しいと感じたから。
・利用者さんとのコミュニケーションが最初は全然できなかったり、学んだ介護技術の応用が難しかったりしたから。
・介護技術など現場での経験を積み重ねないと就職してから影響しそうであるから。

まとめ　新型コロナウィルス感染症の就職活動に対する影響について

今回の調査対象となった卒業生は、看護科は 2 年次から、医療介護福祉科は 1 年次から新型コロナウィルス感染症の影響を受けた。その結果、8 割近くの卒業生が就職活動時にその影響を受けたと感じていた。影響を感じた内容を複数回答で尋ねると、「説明会等の中止」「移動の自粛・制限」が 6 割を超えた。一方、影響を感じなかった卒業生も 2 割程度おり、そのうちの 3 分 2 が、「自分だけでなく周囲も同じ状況だった」と回答していた。昨年度は「大変感じた」と回答した卒業生が 5 割を超えたのに比べると、影響の度合いは低くなった。

学外実習の中止や短縮については、現在、良い影響を感じているという回答が 1 割強、良くない影響を感じているという回答が 4 分の 1 で、いずれも昨年度より約 1 割低くなった。自由記述を見ると、「入職後、できなくて当たり前で接してくれるから」と、特に問題を感じていない卒業生がいた一方で、患者さんや利用者さんとのコミュニケーションに困難さを感じている卒業生や、技術の不足を感じている卒業生がいた。

社会が With コロナの時代になり、採用する側もされる側も、求人、就職活動や採用試験などで遠隔方式を取り入れることに慣れてきたことが、前年度に比べて数字が改善していることの背景にあるのではなかろうか。学生自身が With コロナの生活を受け入れて、自分なりに取り組んだことがうかがえる。一方で、実習期間の短縮や現場での実践不足により、コミュニケーションに不安を覚えたり経験不足を感じる卒業生がいることから、状況に即した実習のあり方についても検討していく必要がある。